

令和6年 **7**月の大阪**森林**便り



7月の木の話 **木の呼吸の意味**

*「木の呼吸」は、周囲の温湿度とちょうど釣り合う含水率になろうとする木材の吸放湿性の比喻です。

*部屋の湿度は外気の温湿度の変動に連動して変化します。

*木材のような吸放湿性に富む材料で部屋を内装すると、部屋が湿りすぎれば余分な水分を吸湿して湿度を下げ、乾きすぎれば地震の水分を放湿して部屋の湿度を上げます。

*エネルギーを使わずに部屋の湿度変動を小さくする調湿効果が期待できます。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ 100 問より抜粋引用)



鹿島、森林計測速さ 30 倍 **ドローンで保全・防災支援**

*鹿島は森林保全を支援するサービスを始めます。

*自律飛行ドローンを使って森林生態系を調べます。

*従来の 30 倍の速さでの計測が可能。

*1 日で約 10 ヘクタールの森林データを集める技術を開発。

*人手による調査は 1 日当たり 1 人で 0.3 ヘクタール程度が限界。

*コストも精密な計測は 1 回の調査で 1000 万円規模。

*鹿島は 50 ヘクタール程度の計測から樹木の生育状況の解析、林業の経営支援まで一貫したサービスを 500 万円から提供。

*木材に加工しやすい樹木を把握することで林業を支援できます。

*土砂災害の発生リスクを検証するデータも提供。

(2024 年 6 月 17 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)





木造ビル 根を広げ天へ伸びる

- * 建築時の二酸化炭素（CO₂）排出を抑制し、環境に優しい木造のビルが建ち始めています。
- * 法改正や耐震、耐火技術の向上が後押し。
- * 住宅・建築部門の CO₂ 排出量は、全体の 3 割を占めます。
- * 大阪市都島区で建築中の 8 階建てマンション。4 階から上は木造。
- * 街の工務店の技術で木造ビルを建てられる時代に。
- * 大林組は 2022 年に横浜市で、高さ 44M、地上 11 階建ての木造高層ビルを完成。
- * 木造の耐火建築物として現状、国内最高の高さ。
- * 高層ビルを実現した技術の一つは、木材を縦横に積み重ね、張り合わせた直交集成板（CLT）です。
- * 2025 年国際博覧会（大阪・関西万博）の大屋根リングにも使われます。
- * 植林から 50 年以上経過した人工林は、全体の 6 割超。
- * 老いた木は CO₂ の吸収量が乏しい上、治水や防災の面でもリスクが高くなります。
- * 東京日本橋では、三井不動産が 2026 年に高さ 84M、地上 18 階建ての木造賃貸オフィスビルを建てます。
- * 東京丸の内では、東京海上グループが 2028 年度までに高さ約 100M の木造ビルを完成させます。

（2024 年 6 月 24 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

